

学校図書館支援センター通信 NO.139 12月号



令和元年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

富貴島小学校 公開研究会

「児童の主体的・対話的で深い学びを育む言語活動の探究」 ～実生活で生きて働く読む能力の育成～

11月29日（金）富貴島小学校にて、学力向上推進校及び日本学校図書館学会研究推進指定校として、国語科の公開研究会が行われました。富貴島小学校は、国語科を中心として研究を進めながら、各教科等との関わりや読書へ目を向け、「実生活で生きて働く読む能力」の育成をめざしています。公開研究会では、全学年が授業を展開しました。全学年ともに並行読書を取り入れた単元構成で、どの学年にも学校司書が関わっていました。また、全学年統一の「ぶんぶんファイル」を活用するなど、学校体制のもと計画的に進めています。

1学年 「伝えよう！絵本のここが好き！」 学習材：「スイミー」他 レオ＝レオニの絵本

場面の様子について、主人公の行動や会話を中心に想像を膨らませながら読むために吹き出しの形をしたペーパーサートを作り、それを絵本の挿絵に置きながら台詞を考えて友達に伝えていました。声に出して伝えた後は、吹き出し型の付箋に台詞を書きます。自分の選んだ絵本にたくさんの付箋が貼られ、お話の世界を広げていることが伝わってきました。本単元では、児童にとって理解しやすい絵本を5冊選び用意をしました。



第2学年 「自分だけのお気に入りブックコレクションを作ろう」

学習材：「アレクサンダとぜんまいねずみ」他 レオ＝レオニの本

各教室に「レオ＝レオニコーナー」を設けたり、朝学習の時間に好きな本の好きな場面を紹介したりするなど、児童の意欲を引き出すための工夫がありました。叙述に基づいて、登場人物の行動の理由を想像させるために、クラゲチャート（思考ツール）を活用していました。クラゲチャートで広げた考えをお気に入りブックコレクションにまとめ、自分で選んだ



好きな場面を水色の紙に書き、ピンク色の紙にその理由を書いてまとめたカードが何枚も綴じられていました。

第3学年 「おすすめキャラブックを作ろう！！」 学習材：「モチモチの木」他 斎藤隆介の作品

単元の導入として、「ひばりの矢」「ユとムとヒ」「花さき山」「半日村」「八郎」「三コ」「カミナリむすめ」を紹介して並行読書を行っていました。物語に大きな山場があり、登場人物の性格が読み取りやすいお話を先生方が選書したことで、単元のねらいである「登場人物の性格を読み取る力」に結びついていました。



第4学年 「登場人物の気持ちを『思いのまど』を作って伝えよう」

学習材：「ごんぎつね」他 登場人物の最後の思いを想像させる終わり方になっている本

「ごんぎつね」と共通のテーマ性を持つ作品という観点で4冊の本を選書し、教科書教材で学んだことを活かせるように工夫をしていました。同じ物語を選んだ人同士でグループを作り、登場人物の気持ちの変化について自分で読み取ったことを発表していました。その後の全体交流では、作品の比較やお互いの意見のつながりを意識するなど、活発な話し合いが行われていました。



第5学年 「宮澤賢治の世界に迫れ！～気になる作品について解説書を書こう～」

学習材：「雪わたり」他 宮澤賢治の作品

解説書にまとめるという言語活動を通して、宮澤賢治の優れた叙述や表現等について、一人一人がしっかりと読んでいました。本を開きながら自分の考えを熱心に友達に伝える姿から、どの子も主体的に宮澤賢治作品と向き合っていることが伝わってきました。



第6学年 「読書交流会を開こう～心に響く言葉をとらえ、作品に迫ろう～」

学習材：「海のいのち」他 立松和平日のちシリーズ本

単元の導入は、学校司書による「いのちシリーズ」のブックトークでした。授業中にクエの話題が出ると「学校司書さんが教えてくれた」という児童の反応があるなど、学校司書の働きかけが児童の学習意欲につながっていました。また、一人一人が問題意識（テーマ）を持って、読書交流会に参加していました。いのちについて、作者の思いを汲みながら自分の考えを深めることができる学習でした。



図書館の窓から

～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～



福栄中2年生がビブリオバトルに挑戦しました。全員参加が前提だったので1人わずか2分でお勧め本を紹介し、クラス全体で読みたい本を決めました。わずか2分の本の紹介が本当に素晴らしく、胸打つ発表にただ圧倒されるばかりでした。

「幼少時から本が大好き」と言いながら、自分の好きなページを開き、大きく見せるなどして、本屋大賞受賞作品同士の、力が入った紹介がされていました。聞く側にも紹介者の熱が伝わっていました。学校司書も知らない本の紹介に沢山教えられ、本は生きていると実感しました。

今回のビブリオバトルからバトラー（紹介者）を選出し、2020年3月開催の全国中学生ビブリオバトルに参加します。



【市川市立福栄中学校 学校司書 鈴木 浩美】

第4回非常勤学校司書研修会が行われました！

12月3日（火）に行われた非常勤学校司書研修会では、聖学院大学非常勤講師 小川 三和子先生を講師としてお招きし、「読書に親しむ子ども育てる学校図書館」をテーマにご講演いただきました。

来年度より施行される新学習指導要領の中で、読書がどのように位置づけられているかについてのお話をいただきました。新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」と学校図書館との関連が示され、「読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。」という中央教育審議会の答申を受けて、国語科の「知識及び技能」に「読書」に関する指導事項を各学年に位置づけるとともに、「読むこと」の領域では、学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例が示されました。小川先生から、読書には「1冊の本を最初から読むこと」と「必要な情報を得るために必要なところを読むこと」の両方があり、どちらも大切であることを教えていただきました。両方の要素を取り入れていくためには、学校司書、司書教諭が中心となり、意図的・計画的に読書活動を充実させていくことが重要であることを研修会から学ぶことができました。

新学習指導要領総則第3より

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- (7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。

学校図書館活用授業時間数調査(前期)の報告

今年度前期（4月～9月分）の学校図書館活用授業時間数調査の結果をお知らせします。小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校の合計が、21,638時間でした。右の表のとおり、昨年度の前期と比べると、大幅に活用授業時間数が増加しています。国語科、総合的な学習の時間、理科を中心に、幅広く活用されています。特に、図画工作科・美術科、保健体育科、外国語での活用の増加数の伸びが顕著となっています。美術科の学習では、構図やデザインを考える際に図書資料を活用したり、中学校の外国語科では、図書資料を使って調べたことをもとに英語で紹介したりする取組が見られます。また、図書貸借システム（ネットワーク便）の利用も積極的に行われ、11月29日（金）現在36,983冊の相互貸借が行われ、昨年度の同時期と比べて約530冊多くなっています。

教科等	活用授業時間数	
	平成30年度	令和元年度
国語	10,545	12,113
社会	1,091	1,522
算数・数学	16	9
理科・生活	1,002	1,294
音楽	22	62
図工・美術	628	1061
保健体育	0	89
技術家庭	201	212
外国語	82	192
総合	3,309	4,566
道徳	46	57
特別活動	146	287
その他	150	174
合計	17,238	21,638

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。
市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）
〒272-0015 千葉県市川市曳馬1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

